

◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：見沼たんぼの文化遺産・フナノ保存会

22A-13

代表者：代表 島田由美子

URL :

1. 活動が必要とされた状況

①見沼たんぼ地域は、江戸中期の「享保の改革」の新田開発事業の代表格の地です。

「見沼の新田開発」の歴史的な価値には、きわめて重要なものがあります。この重要な歴史的価値を踏まえて、見沼たんぼ地域での「稲作文化」と「藁文化」の「継承」が是非とも必要です。

②現在、米づくり・稲作を「経済ベースで進める」ためには、「大規模な水田圃場」が必要です。見沼たんぼ地域では、経済ベースでの継承としてではなく、「価値ある文化の継承活動」として、その継承を求めていく必要があります。



2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

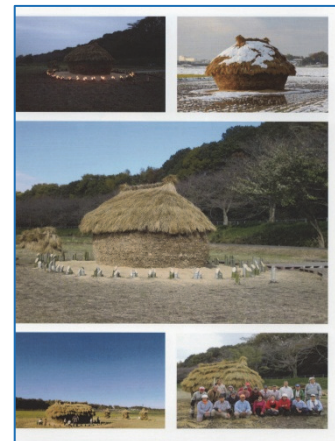
(1) フナノの再生活動を稲作文化と稲わら活用文化の象徴として末永く継続していけるようにしていくためには、その技術と文化と精神の継承が必要です。

(2) フナノ記録誌の内容

① 藁塚・藁について、② 藁塚「フナノ」復元とこれまでの経緯、③ フナノ制作プロセス、④制作方法と規模、⑤ 保存会の結成、⑥ 「フナノ」のある風景、⑦ メディアに掲載された記事等、⑧ 稲作・藁の文化の継承に向けて、

(3) フナノ再生記録誌の「配布」

①フナノ保存会・会員関係計 180 冊、②関係行政機関等計 20 冊、③文化施設等 30 冊、④近隣農家等取材協力者近隣農家等協力者等 20 冊、⑤後年への保管必要部数として 20 冊、⑥必要に応じて後年に配布用として 30 冊 総合計 300 冊



3. 活動の成果

①見沼たんぼ地域を大規模田園緑地空間として継承・発展させていくために、この地域の歴史に基礎を持つ地域文化を学び、継承し、大切にしていく活動です。

②フナノの再生活動の継続は、この地域の稲作農業文化を将来にわたり、学び、継承し、大切にしていく活動の象徴的な活動となっています。

③見沼たんぼ地域の未来への継承と発展のために、市民団体と農家等との連携活動と信頼関係の構築が進みました。

④フナノの再生・制作活動を通じた市民と農家の連携協力活動の継続は、この地域のコミュニティの発展の基礎になってきています。

4. 今後に残された課題

①市民活動による継続的な活動と支え②歴史・民俗文化を継承する「行政機関などとの連携」、③大学や農業研究機関などとの連携、④全国の「農業文化の研究機関」などとの連携、⑤参加する市民の視野を広げて楽しく続けていくこと、などが今後の課題です。